


# 大用 自然が自然遺産

# 新おみやげ

松達は大用という地域に住んでいます。そこで、大用のすばらしい所や、この地域ならではの行事などをたくさんの人に知ってもらいたくてこの新聞を作りました。



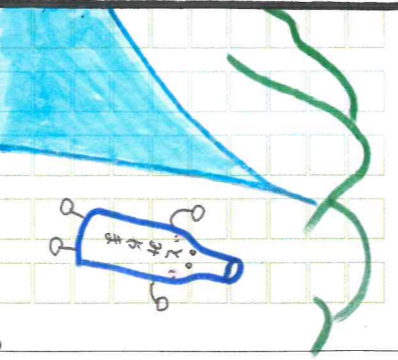
毎年田植え、稲刈りが終わると中学生で「ハノ字真をと」といいます。  


校五、六年生、中学生で行きます。地域の方面に行くと、酒米に協力していただきます。毎年行うことができます。植えているのは、「吟の夢」という酒米です。  
 九月には稲刈りを行います。成長した稲をすべて手作業で刈ります。時間はかかりますが、稲刈りの大いに送ります。そこでおひしいとみやまーが完成します。

### 酒米

### 吟の夢

松達はこのとみやまを売り出していき、地域の活性化につながっていくと思います。  
 もつと多くの人にこの地域のことを知ってもらいたいと思います。




(田植えの様子)



(刈りと、た稲)

明治時代まで、お酒を作っていた森さんのお宅へ伺い、インクビームをささせていただきます。た。お酒とみやまについて森さんが行っている陶芸について教えてくださいました。  
 大用は水がいしくみしいので、あることか、ウインなどではなく、日本酒を作るものができています。お酒に菌が入らないように冬に作るというので、使いはれる縄の土を使っているそうです。大用の土でもできるんですが、一から土を作ります。すると人手不足で、時間もかかるので、色んな土を混ぜて使っています。

林さんは沖繩で陶芸の修行をして、林さんが沖繩で陶芸の修行をして、使いはれる縄の土を使っているそうです。大用の土でもできるんですが、一から土を作ります。すると人手不足で、時間もかかるので、色んな土を混ぜて使っています。大用の土でもできるんですが、一から土を作ります。すると人手不足で、時間もかかるので、色んな土を混ぜて使っています。

Very Delicious!!  


## 大用森さんインタビュー

